

海域の概要

本湾は、岩手県南東部に存在する湾で、湾奥には天然の良港である釜石港が存在します。湾の南海域はワカメやホタテ、コンブなどの養殖場として利用されています。



Specification

諸元

湾口幅：2.3 km

面積：8.7 km²

湾内最大水深：4.9 m

湾口最大水深：4.9 m

閉鎖度指標：1.28

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

岩手県釜石市釜石先端と同市鷲ノ巣崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

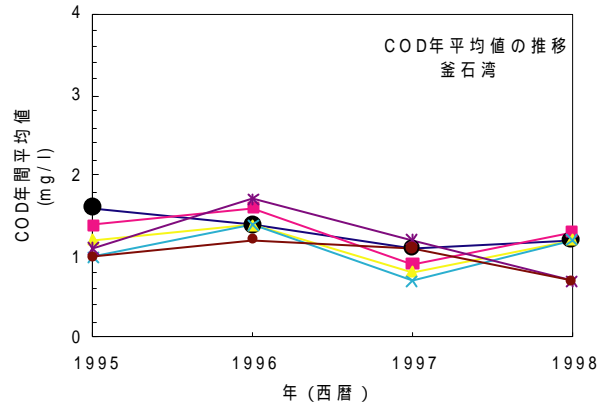


環境

釜石湾は、夏は冷涼、冬は比較的温暖な典型的な太平洋型気候に属し、時折、オホーツク海高気圧のヤマセにより冷夏になることがあります。

水質は、概ね良好で、COD年平均値の推移では、1mg/l弱から2mg/l弱の範囲で推移しています。

底質は、湾奥の一部が泥質で湾口に向かうと砂質となっています。



自然

釜石湾は、湾入が深く、水深が深い、典型的なリアス式海岸で、陸中海岸国立公園の一部です。

湾口付近の岩礁には、コンブ場やガラモ場といった藻場が分布します。

湾口付近北東の三貫島は、暖帯性植物が茂る無人島で、オオミズナギドリ・ヒメクロウミツバメの繁殖地（国指定動物）となっています。島には、タブの木を主とした原生林の趣があって、これらの海鳥とともにクロコシジロウミツバメやウミウも繁殖していて、鳥類の楽園ともいふべき良好な環境です。



鳥の楽園「三貫島」

文化歴史

近代製鉄業発祥の地としての歴史を持ち、「鉄と魚と観光のまち」として発達してきました。しかし、基幹産業である鉄鋼業の相次ぐ合理化や国際漁業規制の強化、魚価の低迷による水産業の不振など、地域経済の影響を被り、かつておよそ9万人を数えた人口も、その後急激に減少し、平成12年10月末時点で約5万人弱となっています。

釜石では、日本人のみの手による海図第1号「陸中國釜石港之図（1872年）」が作られています。



陸中國釜石港之図

産業

釜石市は、親潮と黒潮が交錯する世界屈指の漁場、三陸漁場を控えるとともに、大陸棚と典型的なリアス式海岸に恵まれ、イカ釣りや定置網等の漁船漁業をはじめ、アワビ、ウニ等の採貝藻、ワカメ、ホタテ等の養殖業を中心とする沿岸漁業が盛んに行われています。

しかし、200海里時代の到来や定置網漁業のサケ魚価の低落等から、漁業経営は大変厳しい状況が続いています。このような情勢に対応するため、増殖事業による沿岸漁業資源の保護拡大を図るとともに、小型漁船の近代化や作業設備、漁港の整備等の基盤整備が進められています。